



二十六聖人

令和2年12月号

(令和2年11月29日発行)

教会だより

2020. 12 No. 331

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296
<http://www.futamatagawa-cc.com/>
主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

平和の王の訪れ

近くに大きくて美しい公園があるのに、そこへ足を運ぶのは「一年に一回ほどの珍しいこと」でした。今年のこの新型コロナウイルスの為に、ほぼ外出もせずずっと司祭館に留まり、まるで、巣ごもりのように過ごしてきました。それで11月の半ば、ようやくその「珍しいこと」を行いました。久しぶりの散歩だったので、秋の日差しを浴び、亀のようにゆっくりゆっくり歩きながら、秋の雰囲気浸っていたところ、少し先の子供達の遊び場から、幼子達の遊び声が聞こえてきました。その声に誘われて、しばらく、足を止め、子供達の遊ぶのを眺めながら、「イエス様もあの子らのように遊んだだろう。この世界は全ての子供達のものになるべきだ。」という思いが頭に浮かびました。

イエス様は神様の独り子でありながら、人間と世を救うために、自ら人間となりました。その訪れは偉大なメシアの突然の出現でも、また、輝かしくて華々しいことでもありませんでした。私達と同じく、イエス様は人間の赤ちゃんとして来られ、限りない弱さの中でご自身の人生を始められました。また、生まれてから世の中の権力者や自ら義人と主張していた人たちの憎しみの的となり、その人生は悪や罪との戦いの連続でした。でも一方、貧しい人や病人、弱い人や罪人、色々な悩みや苦しみ、涙の中にある人たちには、仲の良い友達となってくださいました。イエス様に会った人々はイエス様から、慰めと力、喜びと平和をいただき、新たに生きるための命を得ることができました。イエス様はそういった人々の痛みと悩み、苦しみと涙を共にするために来られ、それらのことをご自身のこととして受け入れ、その代わりに彼らには新しい命を与えてくださったのです。それが赤ちゃんのイエス様の訪れの目的だったに違いありません。やはり、赤ちゃんのイエス様の馬小屋はその目的にぴったりで、自らを最も低くされた平和の王にふさわしい所だったでしょう。

今年はまだもう2,000回を超えたクリスマスを迎えています。残念ながら、イエス様の真の平和はまだ、その完全な姿を見せてくれません。そればかりか、世界はその平和の道に足を運ぶことに躊躇っているようです。新型コロナウイルスのさなかでも、すべての人、特に権力者たちの目はその平和に向かっているかのような気がします。今の世代が次の世代に、しかも幼い子たちに「平和な世界の建設」を宿題として負わせることが、どれほど恥ずかしいことなのか、改めて気づくことができれば幸いです。

人に世界という素晴らしい遊び場を与えてくださった神様。あなたの独り子の訪れによって私達を新たに、すべての人が共に喜び合う平和な世界を築いて行くことができるようにしてください。アーメン。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求

【司祭】

黙想会がないため、複数の司祭による「ゆるしの秘跡」の場を設ける事が出来ませんが、個人的な「ゆるしの秘跡」は行います。二俣川教会ではミサのLIVE配信は行っていませんが、LIVE配信は、霊的一致ではなく霊的成長に役立つものになると理解していただきたいと思います。これは録画配信も同様です。

11月は死者の月です。亡くなられた方との繋がりは祈りを通して確認できます。私達の祈りは亡くなられた方のために大事なものです。なぜなら、亡くなられた方は自ら祈る事が出来ません、生きて私達が祈る事で亡くなられた方を神様が力づけて下さいます。「死者の月」だけでなく、亡くなられた方の為に神様の恵みと永遠の安息を願い祈って下さい。

1. 待降節からのミサに関して

◇11月28日(土)17時ミサより新たな地区割でミサを執り行います。

- ・待降節から、ミサは2地区合同で最大80名の参加人数とします。(現状45名)
- ・奉仕者はミサ毎で13名(参加地区より10名、対策チーム3名)となります。
参加地区奉仕者10名の内4名は典礼奉仕を行います(先唱、朗読①②、香部屋)。
- * 典礼奉仕を担当する方は1時間前に来ていただき、神父様よりレクチャーを受けます。
- ・ミサ後の清掃消毒は地区を指定して実施致します。

2. クリスマス及び年末年始ミサに関して

◇専用の地区割でミサを執り行います。

- ・クリスマスミサ:24日(木)19時、21時 / 25日(金)9時、11時
- ・年末ミサ:31日(木)19時、21時 / 1月1日(金)9時、11時
- ・奉仕者12名:該当地区(口ビ-奉仕6名、典礼奉仕3名) 対策チーム3名
- * 地区指定となりますが、止むを得ない方は指定日時以外でもミサに与れます。
- * 聖堂の指定席満席後は2階集会室も利用します。
- * 感染症対策で換気を行いますので、防寒を考えた服装でミサに参加をお願いします。

3. 年末福祉献金に関して

例年、バザー収益金を各福祉団体に寄付していましたが、2020年はバザーを開催出来なかった為、特別献金を行い年末福祉寄付金と致します。皆様の協力をお願い致します。

【各委員会報告】

(事務所) : 事務所は12月29日~1月4日の間お休みです。

(典礼委員会) : 待降節の「ゆるしの秘跡」は事務所もしくは神父様にご相談下さい。
聖堂「お花の係」の担当者を募集しています。(自薦他薦問いません)

(教会学校) : 今年の七五三のお祝いは中止とし、来年は今年対象者も含めてお祝いを予定します。今年のフォローで12月27日(日:聖家族)14時のミサに家族で与る事を呼びかけます。

(青年会) : 10月の「教会学校と青年と共に捧げるミサ」に5名の青年参加があり、地区ミサに参加出来ない青年から感謝の言葉がありました。

以上



教会学校だより

初聖体

11月22日(日)に行われた「教会学校と青年と共に捧げるミサ」で、小学2年生から中学2年生の5名が初聖体を受けました。コロナウイルス感染拡大の影響により、今年の6月に予定されていた初聖体が流れ、5ヵ月越しの初聖体でした。

教会に集い勉強することができない期間も、おうちで毎日お祈りを捧げたり、プリントで勉強をしたりと、長い間準備をしてきました。奉納では、その「おいのりカード」をみんなで捧げました。

初聖体を頂いた子どもたちは「キリストのご聖体を頂けてとても嬉しい」と感想を述べていました。

皆さま、お祈り頂きありがとうございました。これからも彼らを温かく見守って頂けると嬉しいです。

(写真)

(写真)

ミサ後は、教会学校と青年のメンバーでお御堂のクリスマスツリーの飾り付けを行いました。いよいよ待降節です。例年のように聖劇やクリスマスパーティーは行えませんが、みんなで主のご降誕に向けて心の準備を進めて参ります。

(写真)

(写真)

教会学校リーダー Y. M.



マリア会通信 No. 110

お元気にお過ごしでしょうか？マリア会の活動を休止してから長い時間が経ちました。

すでにカトリック新聞でご存知の方もいらっしゃると思いますが、バチカンが9月27日で100周年を迎えるAOSの名称を「ステラマリス」と改名しました。それに伴い、マリア会の帽子を編む会も「ステラマリス帽子を編む会」に改名致します。

今年はコロナ禍にあって訪船も難しいと思いますが、11月24日、有志で帽子をラッピングしました。2月から活動を休止していましたが、53個のプレゼントが作れました。

ステイホームで編んでくださった皆様、ありがとうございました。



マリア会 K. M.



クリスマスを設定する？

もう50年近く前、『クリスマスは冬至と同じ頃にするのが良いということで設定されたものだ。』というS神父様の言葉を聞いて、学生だった私はとにかく驚いてしまった。何故かと言えば、クリスマスは世界のどこにいてももう既に存在するもので、設定されるようなものとは考えもしなかったからだ。でも、その理由を聞いてすごく納得することができた。

特に緯度の高い寒い地域に住んでいる人々にとって、冬至は、暗くて長い夜が漸く終わって少しずつ夜の時間が短くなり始める日であり、逆に、温かい陽の光がこの日から少しずつ長く差し込み始める、つまり「希望」が始まる日と理解されている。主のご降誕=クリスマスはまさに「希望」の始まりなのだから、クリスマスと冬至は宗教的なことは抜きにして、正に同じ意味を持っており、同じ時期であることが相応しいと考えられたという訳だ。

でも、正直言うと、クリスマスが設定されたものという考えには、残念ながら全く夢を感じられないと思う。クリスマスのイルミネーションやケーキに、年甲斐もなく心や体が踊らされているのかもしれないけれど、待降節の過ごし方としては、文字通り「主のご降誕を心を清めて待つ」こともさることながら、家の内外を綺麗に飾り付けたり、いつもより星をたくさん眺めたりして過ごすというようなロマンティックな日々が、私には必要だ。

今年はコロナウイルスの感染拡大防止の為に、待降節の典礼に予定されている黙想会は開かれず、ゆるしの秘跡もいつものようには受けさせていただけられないようだ。でも、だからこそ、当たり前のように与えられ、いただいていたものに改めて気づき、感謝しながら待降節を過ごすことを心がけたい。もしクリスマス=冬至なら、日本人の私は、チキンを食べるよりもかぼちゃを食べ、ミサに与った後にはゆずを浮かべたお風呂につかるべきなのか、と想像してみたりする。
(N. F. 記)

【編集後記】

新型コロナウイルスの影響で『二十六聖人』も神父様の巻頭言以外は典礼や行事の変更、中止の報告書が殆どとなった。むろん、それらは活動が自粛の中、重要なお知らせではあるが。12月から典礼暦では新年を迎える。教会からの手紙にもクリスマスや年末年始のミサ案内があった。良い年になるように願うとともに、これを機に新型コロナに立ち向かう信徒の願いや思いを紙面上に表し、顔を合わせて語り合うことが難しい中、みなさまの分かち合いの場に来るような広報としての企画が出せたらと思う。
(S. W. 記)